

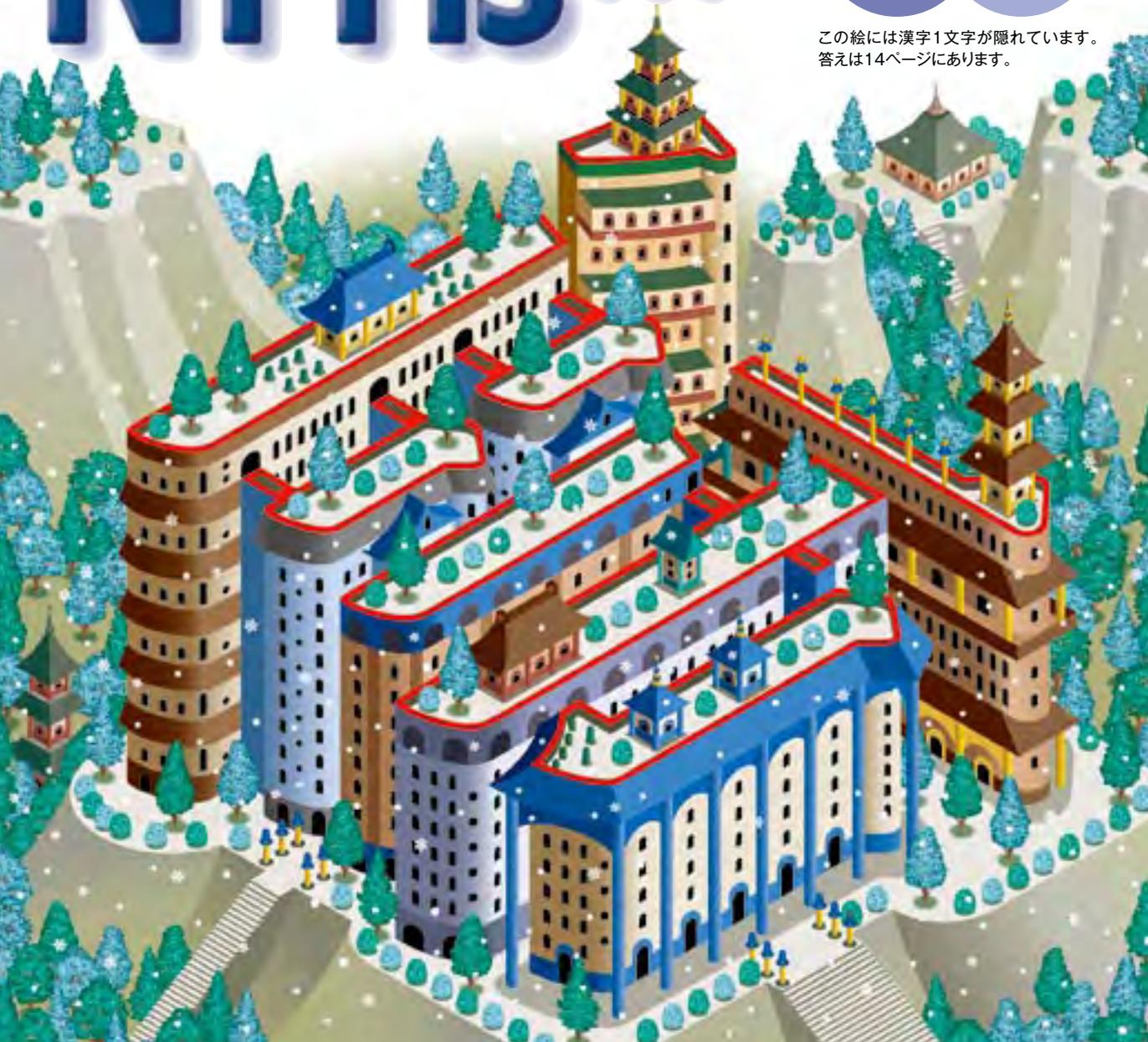
株主の皆様とNTTを結ぶ

# NTTís...

2009

冬

この絵には漢字1文字が隠れています。  
答えは14ページにあります。





代表取締役社長  
みうら さとし  
三浦 愷

株主の皆様におかれましては、当社の事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。ここに「NTTis…2009冬号」をお届けするにあたり、謹んでご挨拶申し上げます。

2010年3月期上半期において、NTTグループは昨年5月に策定した中期経営戦略「サービス創造グループを目指して」に基づき、ブロードバンド\*1・ユビキタス\*2サービスの拡大に取り組みま

した。

固定通信市場では、次世代ネットワーク(NGN)の商用サービス「フレッツ 光ネクスト」の提供エリアを拡大するとともに、映像配信サービスなどNGNの特長を活かしたサービスの拡販に努めました。加えて、光配線方式の推進によるマンション市場の開拓に努めました。これらの結果、「フレッツ光」契約数は1,228万契約となりました。

移動通信市場では、お客様の様々なご要望にお応えする端末ラインアップの拡充をはじめとして、パケット定額サービスの料金水準の見直しや、動画コンテンツ・サービスの拡充など、パケット通信の利用拡大を進めました。また、無料で携帯電話を点検するサービスを開始するなど、アフターサービスの拡充にも努めました。これらの結果、携帯電話契約数は5,519万契約となり、そのうち「FOMA」サービスは5,126万契約となりました。

法人のお客様向けのソリューション\*3では、グループ各社が、パートナー企業と協力しつつ、信頼性やセキュリティの高いNGN、広域分散したデータセンタを活用した災害時などのサービスの継続性、省電力など環境に配慮したデータセンタ、といった強みを組み合わせ、ユーザーズに合わせたクラウドサービス\*4を提供し、新たな市場開拓に取り組みました。

グローバル事業では、提供エリアの拡大、品質の向上、サポートの拡充の観点から、新たな海外拠点の設立や現地企業との資本提携・協業を推進しました。とりわけネットワーク拡充に関しては、日

米間のインフラの信頼性強化を目的とした米国海底ケーブル事業者の買収を実施し、アジア域内においては新たな海底ケーブルの建設計画を進めております。

今後も、引き続き、中期経営戦略に基づく取り組みを推進してまいります。

まず、固定と携帯ともに世界最先端のブロードバンドネットワークを活用した「サービス創造」に、グループ総力をあげて取り組んでまいります。また、現在、業種・業態を超えたサービス融合が本格化しており、NTTグループもパートナー企業との協業を通じて、その取り組みをさらに加速させてまいります。

また、こうしたサービス創造の実績とノウハウをベースに、総合的なソリューションやサービスの「グローバル展開」を推進してまいります。コンテンツ配信などのアプリケーションサービスのグローバル展開など、新たな取り組みを進めるとともに、世界に先駆けて開発した技術の国際標準化活動などにも積極的に取り組んでまいります。

最後に、温暖化防止は地球レベルの課題ではありますが、サービス創造とグローバル展開を通じて、NTTグループの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量を削減する「Green of ICT\*5」、お客様のCO<sub>2</sub>削減に貢献するソリューションなどを提供する「Green by ICT」、NTTグループ社員が家庭や地域におけるCO<sub>2</sub>を削減する「Green with Team NTT」をキーワードに「低炭素社会への貢

献」に努めてまいります。

今回の「NTTis…2009冬号」では、前号までに取り上げてまいりました「研究開発」や「上レイヤサービス」とは異なる側面として、「低炭素社会への貢献」をはじめとしたNTTグループの社会貢献に関する活動についてご紹介しております。

株主の皆様への配当金につきましては、5月に発表いたしましたとおり、2010年3月期の年間配当金については1株当たり120円(対前期10円増額)を予定しており、中間配当金としては、1株当たり60円(対前期5円増額)といたしました。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- \*1.ブロードバンド：高速・大容量の通信
- \*2.ユビキタス：インターネットなどの情報ネットワークに、いつでも、どこからでも接続できること
- \*3.ソリューション：顧客の抱える課題を抽出し、その解決を可能とするシステムなどを提供すること
- \*4.クラウドサービス：クラウドコンピューティングによって提供されるサービスの総称。クラウドコンピューティングとは、ネットワーク経由で、ソフトウェアやサービスを利用できる仕組み。サーバーなどのハードウェアやソフトウェアを購入する必要がなく、サービスを必要ときに必要なだけ利用できるのが特徴。ネットワークを図で表す際に雲(クラウド)の絵で表現する事が多いため、クラウドコンピューティングと呼ばれる
- \*5.ICT(Information and Communication Technology)：情報通信技術。コンピュータによる情報通信に関するハードやソフト、システムやデータ通信などに使われる技術の総称



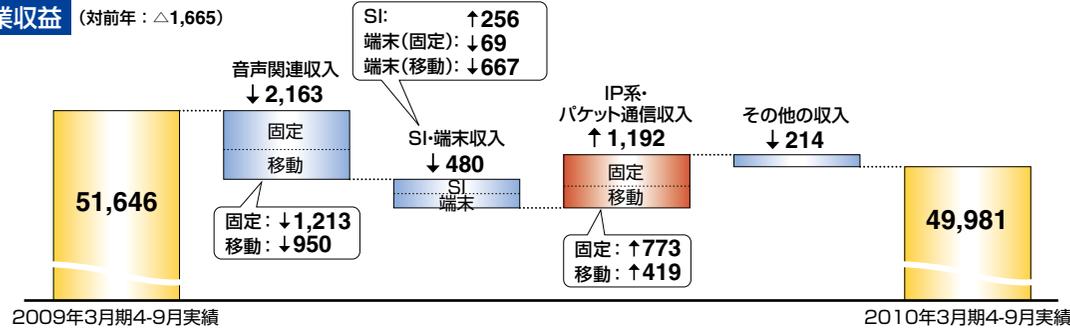
# 第2四半期(累計)の決算概要

- 営業収益は前年同期と比べて1,665億円(3.2%)減少の49,981億円  
 フレッツ光の契約数増加などによりIP関連収入は増収となったものの、固定音声関連収入の減少や携帯電話新販売モデルの浸透に伴い移動音声関連収入、携帯端末販売収入が減少したため
- 営業費用は前年同期と比べて682億円(1.5%)減少の43,513億円  
 年金数理差異償却費の増加により人件費が増加しているものの、携帯端末機器原価の減少に加え、グループ各社において徹底したコスト削減を実施したため
- 営業利益は前年同期と比べて983億円(13.2%)減少の6,468億円

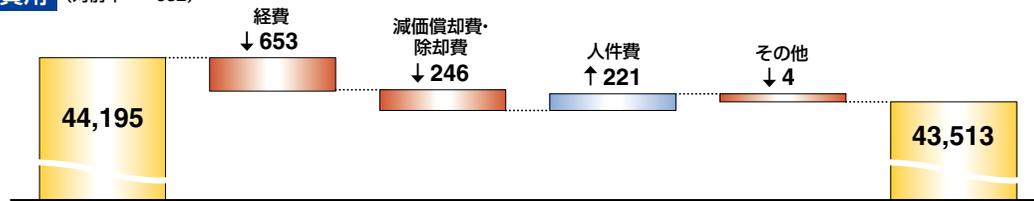
## 前年同期比増減の内訳(科目別)

(単位:億円)

### 営業収益 (対前年: △1,665)



### 営業費用 (対前年: △682)



### 営業利益 (対前年: △983)



## 連結および主要な会社別損益状況

NTT連結とは、NTTグループ連結子会社496社、持分法適用会社84社の連結決算を表しています。ここでは、主な5社として、NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズ、NTTデータ、NTTドコモを掲載しております。

(単位:億円)

区分	NTT連結 ※1	NTT東日本 ※1	NTT西日本 ※1	NTT コミュニケーションズ ※1	NTTデータ ※1	NTTドコモ ※1
営業収益	49,981	9,463	8,762	5,325	5,328	21,458
(対前年同期増減額)	(△1,665)	(△195)	(△319)	(△241)	(194)	(△1,220)
(対前年同期増減率)	(△3.2%)	(△2.0%)	(△3.5%)	(△4.3%)	(3.8%)	(△5.4%)
営業費用	43,513	9,141	8,585	4,797	4,993	16,606
(対前年同期増減額)	(△682)	(△312)	(△430)	(△225)	(306)	(△303)
(対前年同期増減率)	(△1.5%)	(△3.3%)	(△4.8%)	(△4.5%)	(6.5%)	(△1.8%)
営業利益	6,468	322	176	528	334	4,852
(対前年同期増減額)	(△983)	(116)	(111)	(△15)	(△112)	(△917)
(対前年同期増減率)	(△13.2%)	(56.6%)	(168.7%)	(△2.9%)	(△25.1%)	(△15.9%)
税引前利益	6,436	※2 442	※2 247	※2 619	※2 303	4,799
(対前年同期増減額)	(△1,276)	(△0)	(105)	(△38)	(△129)	(△803)
(対前年同期増減率)	(△16.5%)	(△0.1%)	(74.1%)	(△5.8%)	(△29.9%)	(△14.3%)
四半期純利益	※3 2,822	339	200	365	152	※4 2,847
(対前年同期増減額)	(△1,241)	(△101)	(92)	(△195)	(△75)	(△619)
(対前年同期増減率)	(△30.5%)	(△23.0%)	(85.8%)	(△34.9%)	(△33.0%)	(△17.9%)

※1 当社およびNTTドコモは米国基準(連結)、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準(単独)、NTTデータは国内基準(連結)に準拠して作成しております。

※2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。

※3 NTT連結の四半期純利益は、当社に帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

※4 NTTドコモの四半期純利益は、NTTドコモに帰属する四半期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

# 連結業績予想

5月に公表いたしました通期の業績予想について、今回、見直しを行いました。

● 営業収益は、携帯電話端末販売収入の減少や、NTT東日本・NTT西日本における上期の実勢に踏まえて営業収益の見直しを行ったことなどにより、当初の業績予想に比べて1,300億円減収の101,700億円を見込んでおります。

営業費用は、携帯電話端末原価の減少やグループ全体でのコスト削減などにより、当初の業績予想に比べて1,300億円減少の90,600億円を見込んでおります。

● 営業利益については、当初業績予想から変更しておりません。

(単位:億円)

	2010年3月期 通期業績予想 (当初)	2010年3月期 通期業績予想 (見直し後)	対当初予想 増減額	対前年 増減額
営業収益	103,000	101,700	△1,300	△2,463
営業費用	91,900	90,600	△1,300	△2,466
営業利益	11,100	11,100	0	2
当期純利益	4,600	4,600	0	△787

※2010年3月期の当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

## 連結および主要な会社別業績予想

(単位:億円)

区分	NTT連結 ※1 NTT	NTT東日本 ※1 NTT東日本	NTT西日本 ※1 NTT西日本	NTT コミュニケーションズ ※1 NTT Communications	NTTデータ ※1 NTTデータ	NTTドコモ ※1 docomo
営業収益	101,700	19,150	17,670	10,820	11,700	42,760
(対前年増減額)	(△2,463)	(△379)	(△573)	(△451)	(309)	(△1,720)
(対前年増減率)	(△2.4%)	(△1.9%)	(△3.1%)	(△4.0%)	(2.7%)	(△3.9%)
(対当初業績予想)	(△1,300)	(△100)	(△120)	(0)	(0)	(△1,060)
営業費用	90,600	18,750	17,620	9,920	10,800	34,460
(対前年増減額)	(△2,466)	(△412)	(△545)	(△343)	(394)	(△1,710)
(対前年増減率)	(△2.6%)	(△2.2%)	(△3.0%)	(△3.3%)	(3.8%)	(△4.7%)
(対当初業績予想)	(△1,300)	(△100)	(△120)	(0)	(0)	(△1,060)
営業利益	11,100	400	50	900	900	8,300
(対前年増減額)	(2)	(33)	(△27)	(△108)	(△85)	(△10)
(対前年増減率)	(0.0%)	(9.0%)	(△35.6%)	(△10.8%)	(△8.7%)	(△0.1%)
(対当初業績予想)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
税引前利益	10,800	※2 600	※2 100	※2 950	※2 860	8,250
(対前年増減額)	(△252)	(△53)	(△95)	(△185)	(△95)	(445)
(対前年増減率)	(△2.3%)	(△8.2%)	(△48.8%)	(△16.4%)	(△10.0%)	(5.7%)
(対当初業績予想)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(△70)
当期純利益	※3 4,600	420	70	560	470	※4 4,930
(対前年増減額)	(△787)	(△355)	(△84)	(△330)	(△13)	(211)
(対前年増減率)	(△14.6%)	(△45.8%)	(△54.7%)	(△37.1%)	(△2.8%)	(4.5%)
(対当初業績予想)	(0)	(30)	(0)	(0)	(0)	(0)

※1 当社およびNTTドコモは米国基準(連結)、NTT東日本、NTT西日本およびNTTコミュニケーションズは国内基準(単独)、NTTデータは国内基準(連結)に準拠して作成しております。

※2 NTT東日本、NTT西日本、NTTコミュニケーションズおよびNTTデータの税引前利益欄には、経常利益を記載しております。

※3 NTT連結の当期純利益は、当社に帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

※4 NTTドコモの当期純利益は、NTTドコモに帰属する当期純利益(非支配持分帰属分控除後)を記載しております。

本誌に記載されている予想数値および将来の見通しは、不確定性・不確実性を含んでおり、実際の業績などにつきましては、今後の経済や情報通信業界内外の動向、新たな技術・サービスや料金水準などにより変動することがあります。従って、当社として、その確実性を保証するものではありません。

# NTTグループの低炭素社会へ向けた取り組み

## NTTグループが取り組む3つのGreen活動

地球温暖化に代表される気候変動問題は年々深刻さを増しており、世界的な取り組みが必要とされています。NTTグループは、温室効果ガスの排出量を減らすため、「Green of ICT」「Green by ICT」「Green with Team NTT」の3つの活動分野を設定しています。事業活動に伴って発生するCO<sub>2</sub>の削減はもちろん、お客様のCO<sub>2</sub>削減、社員のエコライフを通じたCO<sub>2</sub>削減を実施し、低炭素社会の実現をめざします。



## 低炭素社会へ向けた取り組み

### Green of ICT

NTTグループの事業活動に伴うCO<sub>2</sub>排出量の削減

- 通信設備などの省電力化（データセンタ、電力・空調装置など）
- 「グリーンNTT」（自然エネルギー発電の導入）
- 「チーム・マイナス6%」への参加



### Green by ICT

お客様のCO<sub>2</sub>削減に貢献するソリューションなどの提供

- テレワークを支えるICTソリューションや、デジタルコンテンツ流通などの提供



### Green with Team NTT

NTTグループ社員の家庭や地域におけるCO<sub>2</sub>削減

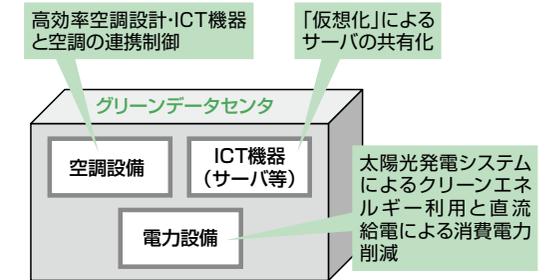
- エコドライブの実践、森林保護活動、地域清掃活動への参加、ビルの屋上緑化、など



## Green of ICTの活動例：データセンタの省電力化

NTTグループでは、CO<sub>2</sub>を排出しない「太陽光発電」の使用や効率的な給排気を行う「空調制御」、「直流給電\*」による消費電力の削減、さらにはサーバを「仮想化」により複数の利用者で共有することで台数削減につなげるなど、最新技術でデータセンタの省電力化を推進しています。

その結果、NTTデータの「グリーンデータセンタ®」は、年間約30%程度の消費電力量を削減し、今年10月にNTTデータとNTTファシリティーズが「グリーンITアワード2009 経済産業大臣賞」を受賞しました。



\* 一般的な電力供給は交流電力であるが、直流給電を用いることで、電力変換回数の削減による給電効率向上を図ることができます。

## Green by ICTの活動例：テレワークによるCO<sub>2</sub>削減

NTTグループでは、在宅勤務など、通勤による人の移動を減らすことでCO<sub>2</sub>排出量を削減可能とする「テレワーク」を支援しています。ブロードバンドの活用で自宅のパソコンでオフィス環境を実現できる「Biz Communicator」や「モバイルコネク」などの様々なテレワークを支えるソリューションを提供しています。



## Green with Team NTTの活動例：社員の家庭や地域でのECOライフ

NTTグループ社員は、家庭や地域で様々なエコライフを実践しています。例えば、業務用車両の燃費向上のためのエコドライブ講習会への参加や地域での実践、ヒートアイランド対策としてビル屋上でのサツマイモ栽培のほか、街頭や公園の清掃活動、森林保護など、家庭や地域において様々な形でCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。



地域と協力した清掃活動にはのべ6万人が参加

## 東日本電信電話株式会社



### 環境負荷低減に向けた新たな取り組み

NTT東日本グループでは、2009年6月から環境負荷低減に向けて、新たな取り組みを推進しています。

#### ● 社員に環境保全活動を推奨する「NTT東日本グループアクトグリーン21」を展開

グループ各社の社員などに対して「eco検定受験<sup>\*1</sup>」「我が家の環境大臣<sup>\*2</sup>への登録」「エコバッグの利用」「地域清掃活動への参画」などを推奨するとともに、環境省が主催する「七タライトダウン<sup>\*3</sup>」に参加するなど、環境負荷低減を推進しています。また、毎月5日を「NTT東日本グループ環境デー」、毎年6月を「NTT東日本グループ環境月間」とし、社員などの環境意識の啓発を進めています。

#### ● 本社ビルのグリーン化を積極的に推進

本社ビル低層棟の屋上緑化を進めるとともに太陽光発電システムを設置し、LED照明を導入しています。低層棟屋上の緑化エリアの一部では「グリーンポテト<sup>\*4</sup>」を展開し、近隣コミュニティと連携して収穫祭を実施するなど、地域社会との交流も図っています。

※1 環境社会検定試験、主催「東京商工会議所」

※2 主催「環境省」

※3 環境省主催のキャンペーンで、七タ「クールアースデー」における20時～22時の2時間、ライトアップ施設などの電気の一斉消灯を実施

※4 (株)NTTファシリティーズの登録商標で、栽培の容易さを活かしたサツマイモ水気耕栽培による屋上緑化手法

### 本社ビルグリーン化 写真



## 西日本電信電話株式会社



### 障がい者雇用促進に向けて新会社設立

NTT西日本グループでは、これまでも障がい者の方々の雇用機会拡大に努めてまいりましたが、障がい者の就労意欲の高まり、社会的な就労機会創出の要請に対応し、より一層の障がい者雇用を促進するため、新会社「株式会社NTT西日本ルセント<sup>\*</sup>」を設立し、2009年9月1日から営業を開始いたしました。

NTT西日本ルセントでは、通勤での就労が難しい障がい者に対し、通信ネットワークを活用した在宅勤務によるデジタル地図の製造やメンテナンス業務、また社内文書など保存書類を電子化し、検索機能の付与などにより情報の有効活用を促進するオフィスサポート業務などを通じて、就労機会の拡大に努めていきます。

※ 新会社の社名「ルセント」は英語で「lucent(光輝く)」という意味を持ち、会社ならびに社員が「光輝く」ようにとの想いをこめております。



NTT西日本ルセント営業開始式典の様様

### ■ 会社概要

社名	株式会社NTT西日本ルセント
設立日	2009年7月1日
営業開始日	2009年9月1日
本店所在地	大阪府大阪市都島区東野田町4-15-82 NTT西日本研修センター内
資本金	4,000万円
資本構成	西日本電信電話株式会社 100%
代表取締役社長	後藤 和之
従業員数	10名(内 障がい者7名) <sup>*</sup>
主な事業内容	・ デジタル地図の製造、メンテナンス業務 ・ 社内文書の電子化サービスをはじめとしたオフィスサポート業務 など

<sup>\*</sup>2009年9月1日現在

## エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ株式会社



### テレビで新聞が読める日本初のサービスの実証実験開始

NTTコミュニケーションズは、デジタルテレビなどからインターネットを容易に活用するためのテレビ向けサービス「DoTV」で、毎日新聞の主要ページの紙面イメージをデジタルテレビで読むことのできる日本初のサービス「毎日新聞×DoTV」の実証実験を2009年9月29日から半年間実施しています。シャープ株式会社の液晶テレビ「AQUOS(アクオス)」のインターネット接続対応モデルから「DoTV」にアクセスすることで、誰でも本実験に参加することができます。

新聞の繊細な質感や細かな活字を、最新のデジタルフルハイビジョン品質で忠実に再現します。紙面イメージはアクオスの付属リモコンの簡単操作で拡大表示することができます。また、主要記事4本程度については、記事の音声読み上げ機能も提供しております。これらにより、目にやさしく読みやすい大きな文字で好評の毎日新聞をさらに楽しむことができます。

今回の取り組みを手始めに、今後は他の新聞や雑誌の閲覧に取り組むとともに、その他の紙媒体で提供される様々な情報のテレビ向け配信を実現していきます。

「毎日新聞×DoTV」のトップページ



#### ●「号外選択」画面

わかりやすいニュース用語解説で好評のコラム「質問なるほど」のバックナンバー400記事以上と、毎日新聞(東京日日新聞を含む)が過去に発行した戦前からの主要な「号外」紙面80本以上を、毎日新聞購読者向け特別コンテンツとして提供しています。

## 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ



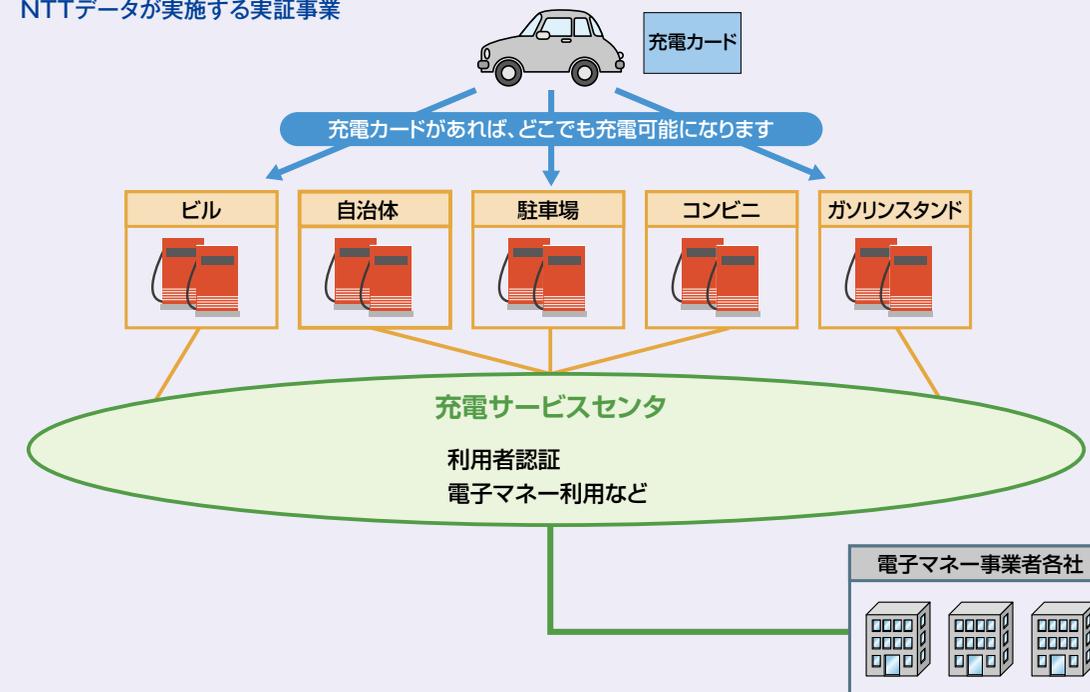
### ITを通じて「電気自動車」を安心・便利に利用

NTTデータは経済産業省資源エネルギー庁が推進する「平成21年度 電気自動車普及環境整備実証事業」へ参加し、2010年1月～2月の間に実証事業を実施する準備を進めています。

NTTデータでは、複数の企業や自治体が別々に設置している充電器をネットワークで接続し、登録された利用者がどの充電器でも同じように使えるようにすることを可能にする「充電サービスセンタ」を提供し、有効性の検証などを行います。協力企業はNTTグループ会社を含め、全部で十数社を予定しています。

今後は本実証事業で得た知見を活かし、ITを通じて電気自動車を利用する企業・個人が安心・便利に利用できる充電設備の社会インフラ化へ貢献することを目指します。

#### NTTデータが実施する実証事業



## 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ



### 国産間伐材を使用した「TOUCH WOOD」を試作

NTTドコモは、国産間伐材を使用した携帯電話の試作機を、more trees\*およびオリンパス株式会社、シャープ株式会社の4社共同で開発しました。試作機「TOUCH WOOD」では本物のヒノキを使用しますが、オリンパスの三次元圧縮成形加工技術によって木材の劣化という課題を解決しました。

この試作機に利用した木材は、四万十原産(more treesの森)の本物のヒノキを使用しているため、1台ごとに異なる美しい木目と色合いが実現できます。

また、森林を育てるために不可欠な間引きで発生する「間伐材」を携帯電話に利用することで、用途が限定されていた間伐材に経済的な価値を見出し、林業を活性化させることで、山・川・海の世界環境整備の促進につながるものと考えています。

\*「more trees」は、音楽家の坂本 龍一をはじめ、細野 晴臣、高橋 幸宏、中沢 新一、桑原 茂一の5名が発起人となり、各界から100人以上の賛同人を得てスタートした、世界の森林を救うためのプロジェクト。「もっと木を」というシンプルで力強いメッセージのもと、森とともに生きることの重要性を伝えています。

「SH-04A」をベースに試作した実機



木の感触や手馴染みの良さを追求しデザインしたイメージモックアップ



当社は、これまでもIRホームページにおいて株主・投資家の皆様に向けた情報開示の充実に努めてまいりましたが、このたび、資料検索などにおける操作性の向上や個人投資家向けコンテンツの拡充およびユニバーサルデザインへの対応をはかり、皆様により簡単・便利にご利用いただけるようIRホームページのリニューアルを行いました。

- ユニバーサルデザイン対応**  
文字サイズ変更が簡単に行えるなどユニバーサルデザインを意識しました。
- パナースペースの新設**  
タイムリーなコンテンツや優先度が高いコンテンツなどを状況に応じてわかりやすく表示しています。
- 個人投資家の皆さま向けコンテンツの拡充**  
中期経営戦略ハイライト(より平易に中期経営戦略を記載)や用語集などのコンテンツを新設しました。
- 目次(コンテンツナビゲーション)の追加**  
小項目(例:社長メッセージなど)を直接表記をすることで、直感的な資料検索が可能です。
- 最新IR関連情報の新設**  
最新IR関連資料(決算短信、決算説明会資料、アニュアルレポート、有価証券報告書など)を1セットにして一括ダウンロードすることが可能です。

URL <http://www.ntt.co.jp/ir/>

表紙の絵には12月を表す「師走」の「師」という文字が隠れています。



## 株式インフォメーション

## ◎住所・氏名など届出事項の変更、配当金振込先の指定について

## 【証券会社の口座に当社株式が記録されている株主様】

お取引先の証券会社へお問い合わせください。

## 【特別口座に当社株式が記録されている株主様】

当社特別口座管理機関の中央三井信託銀行へお問い合わせください。

## ◎住所・氏名の表記について

住所および氏名などの文字のうち、証券保管振替機構が指定していない漢字などが含まれている場合には、その全部または一部を証券保管振替機構が指定した文字に置き換えさせていただくことができますのでご了承ください。

## ◎未払配当金の支払について

まだ受け取られていない配当金がある場合は、お早めに中央三井信託銀行にお問い合わせください。

## 株主名簿管理人・特別口座管理機関へのお問い合わせは

〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号

中央三井信託銀行株式会社 証券代行部

NTT株主様専用電話： 0120-58-4400代 表 電 話： 0120-78-2031株主・投資家の皆様向けホームページ <http://www.ntt.co.jp/ir/>

## NTT東日本・西日本

「電話サービス」に関するお申し込み・お問い合わせは

(周番なし) **116** (NTT東日本:午前9時~午後9時  
NTT西日本:午前9時~午後5時  
年中無休 ※年末年始を除く)「ブロードバンドサービス」に関する  
お申し込み・お問い合わせは**0120-116116**

(午前9時~午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

## NTTコミュニケーションズ

電話・インターネットのサービスに関する  
お申し込み・お問い合わせはコール・コール  
**0120-506506**

(午前9時~午後9時 年中無休 ※年末年始を除く)

## NTTドコモ

総合お問い合わせ先 / 各種ご注文受付  
(ドコモインフォメーションセンター)  
ドコモの携帯電話からの場合(周番なし) **151** (無料)

※一般電話などからはご利用になれません。

一般電話などからの場合

**0120-800-000** (午前9時~午後8時年中無休)

※携帯電話、PHSからもご利用になれます。

日本電信電話株式会社

